

【主の教会中心の信仰に根ざし勝利する一年(5)】



聖書: マタイの福音書16:18 / 暗唱: ヨハネの福音書10:29

ジョンナムチャル

説教: 鄭南哲牧師

【ではわたしもあなたに言います。あなたはペテロです。わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。】(マタイの福音書16章18節)

イエスを信じて信仰の生活をする時に、欠かせない大切なことがあります。それは教会でしょう。今日ある方は教会何か入らないとか、その代わりに物をつくろうとしたりもしますが、それは主の教会について正しく知っておかず、偏っている証拠だと思えます。クリスチャンは何よりも教会についてのしっかりした信仰と聖書の知識を持たなければなりません。今日は聖書の御言葉を通して教会のまことの意味と究極的な意味が何であるのかをともに考えて見たいと思えます。愛する信仰の家族のみなさん! 教会は救われた罪人たちの集まりですので不完全な人々の集まりだと言えます。それにもかかわらずこの不完全な教会への我らの主の期待と望みはとつても深いです。イギリスのスパルジョン先生に一人の信徒さんがたずねてきてお願いをしたそうです。“先生、問題のない完全な教会を紹介してください。”すると、スパルジョン先生は“そのような教会があれば私にも紹介してください。私もその教会のメンバーになりたいです。”と言って、最後にその人に忘れられない一言を言いました。“しかし、あなたがそのような教会を見つけたらあなたはぜひその教会の会員にはならないでください。なぜならあなたがその教会の教会員になればその教会はあなたのせいで完全だった教会が不完全になってしまうかもしれないからです。”これは地上の教会が完全ではなく、不完全な人々の集いであることを示してくれる話です。

それにもかかわらず、聖書は教会は主のものだと教えています。今日の短い聖書の本文は主がみずから立てるすばらしい教会のうつくしさをよく表しています。今日の御言葉には大切な四つの質問に対する答えがあります。「一つ目、教会とはなにであるか。二つ目、教会の基礎は何であるか。三つ目、教会の主人はだれであるか。四つ目、教会は究極的に勝利できるのか。」ということです。

1. まず、教会とは何ですか。

一言で言うと教会は“イエスキリストを信じて救われた罪人たちの共同体”です。主は失われた魂を救うために来られたという御言葉とともに、“わたしの教会を建て”と言われました。神であるイエスキリストは我々を救われた後、教会の体になるようにされました。教会の体になる我々は個人としてではなく教会という共同体をとおして宣教と救済の働きをしながら神様の救いと愛を全世界に証しする使命を受けられました。

我々がかならず覚えるべきことは教会は礼拝堂ではありません。教会は集まって、礼拝したり、御言葉学んだり、自由に賛美したり、主にあって交わっていくための建物は必要ですが、教会は建物を意味してはいません。そして新約聖書において教会を言う時、一度も教派を言ったことはありません。いつも教会は救われた人々の群れとして使われています。原語の文字である **エクレシア** の意味は、“神に召し集められた群れ”です。キリストなしに生きていた人がある日イエスキリストの福音を聞いてその方を救い主として受け入れ、イエスに属する人をクリスチャンと言います。このクリスチャンたちが教会を形成するのです。

私はこれからも我々の教会が施設をもっと広げ、もっとたくさんの教育施設をとおして我々の愛する新しい世代が神様の御言葉を聞き、主に栄光を返すすばらしい信仰の成長があるようにと祈っています。そして小さい子どもからはじめ若い世代、お年寄りの方々がともに交わり、祈りあえるもっとたくさんの空間があればと願っています。だからといって、われわれが忘れないでおくことがあれば、たてものは決して教会そのものではないことです。

私は神様が私を長老教会で育てられ、牧師として召されたことをいつもほこりとして思っております。世界の多くの教団、教派の中でももっとも福音的で、健全な教団だと信じております。それにもかかわらず、このような教団教派が教会という言葉の本質的な意味ではありません。

建物、そのものに集中しすぎてしまって、人を失ってしまうあやまちを犯してはいけません。もしくは、教派的優越感のゆえにむやみに批判したり、傷つけてしまうことがないように気をつけなければなりません。まことの教会はみなさんお一人、お一人です。イエスキリストを救い主として受け入れ救われた個人個人が集まって主の教会をつくり上げていくのです。みなさんは教会の体として美しい教会の家族になっているのです。ですから我々がもっとも大切に思うべき対象は我々です。

2. 教会の基礎は何ですか。

イエスは“この岩の上にわたしの教会を建て”と使徒ペテロに言われました。教会が建てられるこの岩は何ですか。この箇所に対して、キリスト教教会史によると、いくつかの解釈があります。

一つ目は、その岩をペテロという人として解釈することです。ですから、ペテロは初代教皇であり、この教皇をとおして教会が建てられたということです。これがローマカトリックの伝統的解釈です。

しかし本文を読んでみると、十字架に向うイエスをとめるペテロにイエスは“下がれ。サタン。”(23節)と言われました。彼が神様の御心とご計画を拒んだ時、イエスはさりげなく彼をサタンと呼びました。もし、サタンの影響を受ける人間の上にイエスキリストの教会が建てられるとしたらたしてその教会は力強く用いられるのでしょうか。ですから決してこの岩はペテロではありません。

そういうわけで福音的な多くのクリスチャンはここでの岩はペテロの信仰告白ではないかと思っています。“人々は、人の子をだれだと言っていますか。そして、あなたがたは、わたしをだれだと言いますか。”とイエ様が弟子たちに尋ねた時、一番弟子であったペテロは“主はキリストであり、生ける神の御子キリストです。(19節)”と告白しました。この告白の上に教会が建てられるという解釈です。しかし、ここで大切なのは、この信仰の告白自体よりは、信仰の告白の核となるイエスキリストにあることを覚えなければ

なりません。言い換えると、イエスキリストの上に主の教会は建たされるわけで、この岩はキリスト以外、その名を言い換えるものはだれもないということです。

パウロも第一コリント10章4節で“その岩とはキリストです。”と言いました。

そして第一コリント3章11節では“だれも、すでに据えられている土台のほかに、ほかの物を据えることはできないからです。その土台とはイエス・キリストです。”と宣言しました。第一ペテロ2章4節でも“主のもとに来なさい。主は、人には捨てられたが、神の目には、選ばれた、尊い、生ける石です。”とペテロは告白しました。そうです。この岩はまさにイエスキリストであり、イエス様の上に教会はたてられるのです。ですから、教会の基礎となるのはイエスキリストであることを忘れないで下さい。

3.教会のまことの主人はだれですか。

イエス様は“わたしの教会を建てます。”と言われました。(18節)“わたしの教会”ここで、イエス・キリストの一番大切な愛情の対象は主の教会であることをよく表してくださいませ。

教会の主人はイエス様です。イエス様はわたしの教会だと言われました。教会の主人は牧師でも、役員でも、初代メンバーでも、信徒でもありません。ですから、牧師をみあげてはいけません。人にたよってはいけません。教会の主人はイエス様です。わたしたちは教会のかしらなるイエス様に我々の視線と心を集中しなければなりません。

ですから、いつも教会を歪曲させる二つの危険から我々を守らなければなりません。

一つはさきに居ついたものが地元風を吹かすことです。“このわたしがこの教会でどれだけイエスキリストに仕えてきたのか。献金をどれだけささげているのか。”といいながらイエスキリストのかわりに人が主となってしまふ危険から我々の教会を守らなければなりません。もう一つは教派的な固定観念も気をつけなければなりません。イエス様は長老教会を立てよう。浸礼教会を立てよう。とも言われませんでした。ただ、イエス様は“わたしの教会を建てよう。(聖書中心の教会)”と言われました。

牧会者も信徒たちもいつもかしらなる主の教会を、一つの体としてともに努力しなければなりません。

教会の主なるイエス様が“わたしの教会をわたしが建てる。これはつまり主御自身が主の教会をつくり上げていく。”ことを宣言されたのを覚えましょう。もちろん、主を信じるものたちを用いてですね。イエス様は教会の創設者であり、基礎となり教会を建てていかれます。

四つ目、最後に教会は究極的に勝利するのか。

本文で主はこう言われました。“わたしはこの岩の上にわたしの教会を建てます。ハデスの門もそれには打ち勝てません。”

“ハデスの門もそれには打ち勝てません。”これはどんな意味ですか。ハデスつまり地獄の門も教会を揺り動かすことができないということです。これは三つの観点で理解されます。

地獄さえも教会や信徒たちを決して飲み込むことができないということです。イエス様は“わたしに彼らをお与えになった父は、すべてにまさって偉大です。だれもわたしの父の御手から彼らを奪い去ることはできません。(ヨハネ10:29)”だれが我々をキリストの愛から離す事ができるのでしょうか。地獄は決して主の教会を飲み込むことができません。

以前中国に共産主義が実現された時、教会は多くの迫害や厳しい監視によって永遠に消え去ったと人々は思いました。ところが、数年前、中国がはりの穴ほどの宗教の自由を許してから、毎週三千人、もしくは数百人が一気に教会に集まってきました。これは何を言っていますか。イエス・キリストの栄光なる教会は地獄でも揺り動かすことのできない御力を持っていることを示してくれました。

そしてこの御言葉の意味はハデスの軍団は神様の教会を攻撃してくるかもしれませんが、しかし、けっして神の教会を倒すことはできません。そしてついに最後の勝利者はイエス・キリストのみであり、イエスキリストによるのみです。そしてキリストが治める教会はこの勝利の尊い主役になるでしょう。ですから、教会の体である我々もキリスト・イエスにあってともにこの勝利の喜びを味わえるでしょう。この希望と望みを覚えて神様をほめたたえましょう。

地上の教会は成長の過程において苦しみや痛みがあるでしょう。この陣痛を出産の痛みとして理解してください。子を産むために母親が血を流し、苦しみの犠牲をとおして新しいいのちを胸に抱くではありませんか。子どもたちが成長し、成熟していくうちに家庭は様々な苦しみや葛藤を覚える時もあります。しかし、この時期を通れば、子どもたちは成長し成熟していきます。主の教会も信仰が成長し、成熟して行くうちに陣痛と葛藤を覚える時もあります。しかし、これをとおして主に喜ばされる成熟した信仰の共同体として建て上げられていくのです。そして、かならず我らの主は、我々の苦しみを勝利への喜びとして変えてくださることを信じて下さい。

初代教会の教父たちは“教会を母として仕えない人は神を父として呼ぶ資格がない。”と告白しました。

主の教会中心の信仰を強調していた言葉でありながら、我らの信仰は主の教会に深く根ざし、その土台の上に建てられて行くときこそ、まことの信仰の勝利、人生の勝利を得ることができるという意味深い話です。

今年の2012年もすでに1月の最後の主日を迎えています。はじまった今年中はさらに愛する兄弟・姉妹とともに誠実と真心をもって主の教会にさらに深く信仰を根がしつつ、仕えて生けるように祝福します。ともに主にあって作り上げ、共に建てられ、共に満たされ、共に信仰が成長し、共に成熟していく中で、今年一年！主の教会とともに勝利をおさめる年となるクリスチャンプレイズチャーチのみなさんとなりますよう主の御名によって祝福します。アーメン!